

# (国) 宇都宮大学

農学部  
生物資源科学科

## 食物栄養専攻（郡山高校出身）

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

大学受験が上手くいかず、今の自分の力で入れる四年制大学に入学することも考えましたが、最終的に妥協したくはないという考えに至り、桜の聖母短期大学から編入を目指すことに決めました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生後期から週に一度編入を志望する人が集まる授業があり、そこで志願理由書の書き方や英語の対策、小論文の対策が行われました。私は受験科目が他の方と少し違っていたので、個別で先生方に指導をしてもらいました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の早い時期から先生の研究室に随時足を運び、勉強のアドバイスをもらっていました。

1年生の後期から小論文や専門科目の過去問や問題集を解いて、主に食物栄養専攻の先生方に添削していただきました。試験直前まで先生とメールのやりとりをし、面接に向けた詳細なアドバイスをいただきました。試験直前まで気にかけてくださったことは心強く、精神的にも支えられました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

1年生の夏頃から TOEIC の勉強をし、試験まで 6 回、TOEIC を受験しました。しかし、今振り返ってみるともっと早く TOEIC の勉強をしておく必要があったと感じます。生物と化学の試験もあったため、高校の問題集とは別に新しい問題集を買い、取り組みました。また、受験予定の大学の過去問を取り寄せ、問題を解き、先生に添削していただきました。面接練習では先生方に本番さながらの面接をしていただきました。その結果、試験当日も練習と同様、焦らず面接に臨むことができました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

授業の最後にリアクションペーパーを書くことが多いので、どんな場面でも自分の考えを持ち、表現するという力がつきました。また、高校とは違い自分の意思次第で様々な種類の授業を受けることができるので視野を広げることができました。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

ただ大学に編入したいということだけでなくしっかりと軸を持つことが大切だというアドバイスをいただきました。自分の軸を持つことで、面接でも自分の意思をぶらさず話すことができました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

- ① この短大で編入試験に向けて頑張っていこうと思っていました。
  - ② 編入試験対策を早めに行っていかなければいけないと考えていました。
  - ③ 不安な気持ちでいっぱいでしたが、やるしかないという気持ちで臨みました。
  - ④ 精神的にずっときつかったのでやっと報われたという嬉しさがありました。
- 高校2年生の頃から自分は受験生だという気持ちでいたので約3年間の受験生活によりやく終止符を打つことができ、解放された気持ちになりました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

私は高校生までは、編入は浪人より容易に自分が目指す大学に入ることができる手段だと思っていました。しかし、短大では編入試験の勉強と並行して授業で出される課題もこなさなくてはいけないため、決して楽なものではありませんでした。しかしこの受験生活を乗り越えたということはこれから生きていく上での自信になったと思っています。

自分が目指すところに達するために楽な道はありません。編入試験に絶対合格したいという思いがあるのならば、短大入学時から自覚を持って行動する必要があります。試験までは不安な気持ちから逃げることはできないので、その気持ちと付き合いながら勉強に取り組んでいくこととなります。辛くなった際は、家族や先生など周りの方々に相談すると少し気持ちが和らぐと思います。

編入試験に向け、ぜひ強く前向きな気持ちを持って取り組んでいってください。